

みなと元町

タウンニュース

No.
303

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

中央幹線から国道2号線まで、みなとと街を結ぶ幹線道路

車椅子用エレベーターも備えたタワーロード(元町ストリート白書⑮)

元町商店街の3丁目と4丁目を区切る南北の通りをタワーロードという。中央幹線から海岸通(国道2号線)までの区間である。海岸通を南にわたるとタワーサイドホテルがあり、港のシンボル神戸ポートタワー、さらに海と接する終着地点にはメリケンパークオリエンタルホテルが建つ。協議会地域の中心を南北に貫通する大動脈だ。

もともと花隈線と呼ばれてきた道路に「タワーロード」の名がつけられたのは、道路整備が発端だった。昭和62年7月1日、中突堤・花隈線周辺整備協議会設立の準備会が協和会館で開かれている。8月10日には中突堤筋周辺整備協議会準備会、9月1日中突堤筋周辺整備協議会、17日に最終的なツメを終え、9月22日、中突堤筋周辺整備協議会はタワーサイドホテルで発会式を開く。

発会式当時のメンバーは不明だが、平成3年11月開催のタワーロード協議会役員として、真田元一(顧問)、宮本弘之(会長)、太田新次郎・高橋憲二・三木茂(副会長)、奈良山喬一・安達昭三・第一勧業銀行・川原雅通・坂田道治・近藤博信(理事)、山本昇(会計)の名前がある。宮本自治会長を中心に、元町通3丁目

自治会と商店街、4丁目自治会と商店街役員がメンバーだ。

まず取り組んだのは「中突堤筋」と呼ばれていた道路への愛称募集。愛称審議会は12月14日「タワー・ロード」と決定、22日、ホテルシェレナで当選者の表彰式を開く。

昭和63年1月の役員会ではモニュメントの設置を検討、神戸元町ライオンズクラブの協力も得た事業は承認され、作品を発注する。元町商店街の3・4丁目間南面両側に、タワーロードの名称を英字と併せて柱部分に表現、胴部に周辺地図を配し、頭部に明かりをとすポール型のモニュメント、通行人に現在地を知らせる目印として好評だった。モニュメントの除幕式は昭和63年3月12日に開かれ、タワーサイドホテルでレセプションを開く。

乙仲通・海岸通間道路拡幅部の整備計画が狙上にあがったのは平成3年10月になってからだ。16日、協立会館で、宮本会長、真田顧問、三木副会長のほか、コーヒーショップ純、かどや、松原パーキング、へちまモータープール、グリーンパーキングなど地元関係者11名が集まり、神戸市都市計画局から乙仲通から南の広がった道路のロータリー部に、サークル公園を設ける計画の説明を受けた。樹木と彫刻に加え噴水も配し、両側の歩道と連動した形の小公園に、というものだ。神戸市の姉妹都市シアトルのタワー「スペースニードル」を模した案も検討されたが、道路という性格上、樹木と彫刻で構成する「みどりの泉」にまとめられた。

タワーロードの仕上げは、エレベーターの設置である。みどりの泉までたどり着いても、中突堤へ向



かうには国道を横断しなければならぬ。健常者には、歩道橋に空中回廊が接続、中突堤への道が用意されていた。街から海への回廊を足の不自由な人にも利用してもらうためのエレベーター設置である。平面の仕様面積を最小にするため機械設備をエレベーター天井部に収納、高さ11米のエレベーターが平成11年末に完成した。

まちから点字ブロックを伝ってきた人は、エレベーター前で音声による誘導案内が流れ、前後にドアを設け一方通行で降りることができる。高潮から守るため、1階のドア前面には止水板も用意した。12月13日、タワーロード協議会の主催で市議員、港湾整備局、中央区役所、運輸監理部、生田警察署、交通エコロジー・モビリティ財団、みなと元町タウン協議会などが参加して竣工式が開かれた。

神戸市中部建設事務所の片田宏はあいさつで、「神戸市は、高齢者、身障者も安心して歩ける人にやさしい道づくりを進めている。船客待合所の整備がととのい、平成13年には地下鉄海岸線が開通、元町がきれいできやかな街になっていくことを…」

「元町・夢街道」

書店の話⑤

鳩居堂④

岩田 照彦

但馬詳密全図・伊村則功編
兵庫県管内外国人遊歩規定
暗射地球全図・原口松太郎著
小学作文全書・伊藤直道編・全八冊
新撰小学作文全書・伊藤直道編
類聚小学作文之題・全一冊
小学新編作文階梯・野々村政也編
注解普通用文章・西村義民編
小学生徒作文自在高橋鍊三郎著
雅俗文章・中島義洲著
眞草書牘便覧・佐瀬得所書
商用作文三百題・飯田平作著
英和対訳商用書簡文例・田中訥軒訳
名家文範・弘田久助編
初学文編・竹内貢編
弗氏万国史要・関藤成緒訳全冊教育
要義・田中勝之亟編
改正地方学令類纂・塚脇入江編・全
二冊尋常小学校教授細目・教育会編
新撰動物推究要論・杉本正真講
受験応用普通学科問答全書・小林雅
夫・菅原雅輔合著
小学中等科画学書・中村玄晴著・全
六冊

幾何画法・土屋甚四郎著・全二冊
小学体操法・三木熊八・前野関一郎編
風琴実習教科書・佐野喜代吉・奥山朝恭
編大婚二五年奉祝唱歌・教育音楽会
須磨の浦 湊川・竹村鍛作歌・元杉義
敦作曲
学校生徒行軍歌元寇撃殲・小賀直吉作
歌・奥山朝恭作曲
楠公桜井の駅訣別之歌・倉知甲子太郎著
大祭祀日唱歌・平野 平編
西洋楽譜流行端歌俗曲集・池田武次郎作
曲
実用貿易必携・上田観水著・全二冊
英語異同弁・峰見三郎訳
秋夜の感・大石保吉戯著
英会話独学・阪富要吉訳
訓蒙字林玉編・橋爪貫一編
国文学読本解・荒木矩編
和漢善行録・和田高橋編 全六冊
鉄道簿記・久保益良編
新編簿記例題巻の1から五
新編簿記例題解式・久保益良著
肺病予防論・医学誌小林廣先生著
保育叢譚婚姻編・保育協会主幹栗原
政蔵著・全三冊既刊
保育叢書胎内教育編近刊発売所東
京市京橋区銀座四丁目博聞社

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 11月

◇元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850

元町占い市 11月8日(水)12時~17時
元町水曜市 11月15日(水)10時~19時

◇元町5丁目商店街振興組合 TEL341-6819

FLAMENCO in MOTOMACHI 5
11月12日(日)13時~15時~

◇風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もとまち密蔵「趣雅亭」

11月10日(金)
林家 染吉 桂 吉坊 桂 文華
桂 枝三郎 笑福亭 純瓶 桂 きん枝
前売券10月11日より風月堂で発売

◇劇団四紀会(有料)元町フジシアター(JR元町駅西口向かい)

劇団四紀会創立60年記念公演vol.4「王将」
11月25日(土)~12月3日(日)まで
詳しくは、劇団四紀会までTEL392-2421(20時~)
mail info@shikikai.com

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

11月2日(木)~11月7日(火)
第19回アートフォーラムアルペジオ合同作品展
(油彩・水彩・書道・その他)
11月9日(木)~11月14日(火)
げんき会 作品展(水彩・その他)

11月16日(木)~11月21日(火)

第15回スケッチクラブ「サンツリー」展(水彩)

11月23日(木)~11月28日(火)

第37回三滝会展(書道)

11月30日(木)~12月5日(火)

キルト♡マインド パッチワーク・キルト作品展

◇元町映画館(有料) TEL366-2636

11月4日(土)~11月16日(木)「禅と骨」

11月4日(土)~11月17日(金)「逆光の頃」

「リミット・オブ・スリーピングビューティ」『女になる』

11月11日(土)~11月24日(金)「AMY SAID」

特集「ハートアンドハーツ・コリアン・フィルムウィーク」

11月17日(金)~11月18日(土)

『74歳のベリカンはパンを売る。』

11月18日(土)~12月1日(金)

『旅する写真家 レイモン・ドゥパルドンの愛したフランス』

11月19日(日)~12月1日(金)「心に吹く風」

11月25日(土)~12月8日(金)「ニーゼと光のアトリエ」

栄町通クリーン作戦は、雨天のため中止となりました。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

編集後記

協議会で屋上の広告物が議題になり、新規の広告物掲出のため、設備と広告物は認められない定めになったのを機に、高架を走るJRの車窓からビルの上上に視線をあそびてみた。▼広告主を待つ骨組みだけの広告塔、アンテナ、物置小屋、植木、水タンク、物干し場、冷暖房屋外機、社、拝殿、保育園児用の遊具。屋上で園児をあそぼせる時代になったかと驚いている間に目につく飛んできたのは整然と並んだ墓石だ。▼もともと敷地にあった墓石を、寺をビル化するため屋上への移転を余儀なくされたのか。それとも、天空へのスターラインにもっとも近い墓の特別席として新規に開かれた墓地なのだろうか。

企業会員を募集しています

みなと元町タウン協議会の事業目的は、東西を鯉川筋から神戸駅、南北を中央幹線から海岸通まで40竃にのぼる地域を対象にしたまちづくりです。地元商店街・自治会・企業会員で運営しています。景観形成市民協定に基づく地元にくさわしい景観への取り組み、ニュースの発行(月刊)、クリーン作戦などのほか、各地域で専門部会をもうけ、神戸市や関係機関とともに暮らしの場、働く場の魅力アップのため活動しています。

年会費: 24,000円

問合先:みなと元町タウン協議会 事務局
(岩田・三枝) TEL391-0831まで

展示鑑賞ご希望の方は、はがきに住所・氏名・年齢・本紙へのひとことを添えて編集部まで。先着順で5組の方にペア招待券をお送りします。

☆ボストン美術館の至宝展

場所:神戸市立博物館 TEL391-0035

期間:10月28日(土)~2018年2月4日(日)



2号線との交差点近くにひろがるみどりの泉の向こうにポートタワーの頭が浮かぶ

海という名の本屋が消えた (48)

平野義昌

池長孟 その3

池長孟は美術品蒐集動機のひとつに「家庭的不幸」を挙げている。1925(大正14)年に妻・正枝を亡くしたことは「人生の最大不幸」だった。(註1)同年9月、正枝は3人目の子を出産した後、高熱が続き、12月帰らぬ人となった。妻・母、ご寮さんとして孟を支えたが、孟は仕事とダンスの毎日だった。

正枝の一周忌の後、画商が藤島武二の「官女と宝船」という絵を持ち込んできた。正枝そっくりの美しい女性像に、孟はもちろん養母も従業員も見惚れた。その感動のなか、養母が再婚話を切り出したことで、孟は兵庫の家を出る。この後の淀川富子との結婚・離婚は前に紹介した。「やりきれない気持を蒐集道楽に打ち込んで辛うじて生命をつなぎ得た」。(註2)旧家の跡取りというしがらみもあっただろう。他の蒐集動機については後述する。

32(昭和7)年、孟は南蛮紅毛美術蒐集が完成に近づき、蒐集品目録出版を計画する。『邦彩蠻華大宝鑑』全2巻、年表と英文冊子付録、定価70円、草製函入りの豪華本、絵200枚(カラー・モノクロ図版、版画)、手漉き和紙使用。孟が絵について解説や詩歌を執筆した。自費出版で500部制作した。版元は大阪の創元社、社長の矢部良策は編集作業に数年かかる事業と考えた。孟は「僕の文字に不可能ということはない」と1年で完成させた。孟だけではなく、編集者、印刷・写真関係者たちの苦労と努力が察せられる。孟は解説の中で蒐集の理念を述べている。題して「十誡」。

趣味もない分りもしないものを集めるな、にせものをつかまされても自分を恥じ人を怒むな、良いものは高価でも買え、系統立てて集めよ、など経験から得た心構えであり後進への忠告である。10番目に「自己のものに非ず。国家の宝と心得て、その保存には綿密なる注意を要す」と、社会奉仕の気持ちと保管・防災にも触れている。(註3)

「あとがき」では自らの芸術好きについて書いている。

《私は生まれた時から、何でも好きだった。俳句でも、和歌でも、詩でも、小説でも、戯曲でも、芝居でも、映画でも、音楽でも、建築でも、凡そ芸術と名のつくほどのものなら、何でも好きだった。》(後略)。(註3)

神戸への思いと西洋文化への親しみもある。《……神戸は現代の長崎である。出島が、昔、海外文化を輸入する門戸であった如く、現代の神戸は、日本が世界的に伸展してゆく、発祥地である。扇嶼に昔、南蛮情調が溢れていた如く、現代の扇の港には、異国趣味の芳香が満ち満ちている。》(後略)。(註3)(筆者註「扇嶼」は出島、「扇の港」は神戸港)

神戸の港には外国船が並び、街は「万国人物図巻」の様相、山手に外国人たちが暮らし、元町のショウウィンドーには色鮮やかな衣服が飾られている。《……こんな国際都市に生活しながら、エキゾチックな感情に支配せられないわけではない。加之、欧米の風光を親しく見て、その人情風俗に接して来た私は、この感情をいやが上にも煽られた。》(註3)

同書に掲載された神戸関連の絵図は、長谷川小信版画「神戸海岸繁栄之図 三枚続」「神戸新福原廓」。孟の解説。

《長谷川小信は、大阪の人。浪華や神戸の風景などを、

とり扱っている。うちあげたところ、あまり絵は、上手とは言えないが、何一つ作品など残されていない、貧弱な、しかもわが愛すべき郷土神戸にとっては、有難い人である。》(後略)。(註3)

「慶応四年版 神戸地図 兵庫地図」では歌を披露する。一部紹介する。

「繁華街」万国人物図巻をここに／ひろげたり／鈴蘭燈の景深ゆる時

「海港下瞰」 諏訪山の／金星台より眺むれば／蜜船あまた港埋めぬ

「東亜路」 絵日傘をかたむけながら／八月の／トエア・ロードを行く女かな(註3)

同書は外国の大学や図書館から需要があったが、国内であり売れなかった。孟は蒐集に理解ある友人たちに贈呈した。谷崎潤一郎は礼状で、「装幀の絢爛たる内容の精巧なる実に空前の大出版」と賞賛している。(註4)

孟も本書の出来栄に大いなる自信を持っていた。《……南蛮、唐、紅毛の異国趣味ゆたかな、日本美術品の集大成である。しかも私一個人の蒐集にかかり、日本に於けるこの種美術の代表作家の、代表的作品を一堂に網羅してしまったので、この点だけでも正に奇蹟的な驚異に値する。》(後略)。(註5)

従来美術品愛好家が「邪念妄想が多い、馬鹿げた高価な金を捨てる」と批判する。学者の「読みづらい説明」に不平を言う。自分の説明は「あっさり」と文芸的」と自賛し、装幀も誇る。売れなかったことについては、「……あまりに大きすぎたためか、時代から進み過ぎていたためか、世間ではなりをひそめている」と告白する。(註5)

孟の蒐集動機に戻る。前述の「芸術愛好熱」と「家庭的不幸」に加え、「社会奉仕」「欧米視察」「紅塵荘建設」を挙げている。(註2)

まず、「社会奉仕」。孟は除隊後、養父・通の友人武岡豊太(筆者註、湊川改修事業に貢献した実業家・美術蒐集家)に歌川広重「東海道五十三次」を勧められた。武岡は孟に譲るために保存していたと言う。日本の宝である浮世絵が海外に流出していることを憂い、それを防ぐことは社会に対する務めであると説いた。

《武岡が知識あるものは知識を、財あるものは財を、それぞれ持って生まれた持ち分によって社会に役立てるべきだと説くのを池長は目の前が開けていくような気持ちで聞いた。世間から、「百万長者」とか「金持ちのぼん」などと呼ばれるたびに感じていた妙な居心地の悪さが、この武岡の言葉によってみごとに水解する思いであった。》(註4)

孟は自作戯曲集『開國秘譚』の解説で、明治維新後の兵庫豪商たちの名を挙げ、その社会貢献を高く評価している。養父の世代もその系譜に連なる。

《父の時代には地方的人材が沢山有った。いずれも土地のため、人のため、無報酬どころではなく、私財をも投じて尽くしたものである。(中略)言わば公共のためにつくすことが、一つの道楽であったかも知れない。》(後略)。(註6)

孟は幼い頃から父親たちの姿を見て、高貴なる者の義務を学んでいた。そこには文化・芸術に対する興味と理解も含まれていた。

「欧米視察」とは1922(大正11)年4月から11月、特に

目的のない友人との漫遊旅行である。養母に仕事や家庭を考えていないと機嫌を損ねられたものだ。孟はニューヨークで偶然目にした美術館に圧倒された。鉄鋼会社USスティール創立に参加した実業家の蒐集品だった。各地の美術館・博物館を訪問し歴史と芸術に親しみ、夜は友人と街に出て本場のダンスを習得した。この旅で西洋文化の重厚さを再認識した。孟は神戸で西洋の文化に親しんでいたものの、欧化主義の美観無視、喧噪、能率追求、中央中心などに反感を持っていたからだ

「紅塵荘建設」はその建築と共に美術品・装飾品選びに凝ったことを指す。

お金の話は憚られるが、ここでは大事なこと。大正末頃、池長家の地代・家作収入は月2000円だった。それでも孟は絵購入のために垂水の別宅を処分し、家作を手放し、より良い絵のために既存のコレクションを整理した。31〜32(昭和6〜7)年は特に高価な作品を買っている。「都の南蛮寺」(27000円)、「南蛮屏風」(19500円)、「泰西王侯騎馬図」(25000円)、「四都図・世界屏風」(18000円)など。莫大な資産もそろそろ余裕がなくなっていた。親戚の借金依頼(2000円)を断るほどだった。蒐集に協力してきた美術商が、美術館建設資金を残すよう説得している。その一方、33(昭和8)年、在野の考古学者が蒐集した郷土資料を買い取り、博物館計画も立てている。これは実現せず、1980(昭和55)年、遺族が資料を兵庫県立博物館に寄付した。

孟お気に入りの絵「官女と宝船」のこと。絵は紅塵荘の応接室に飾られていたが、40(昭和15)年、孟は別の絵を入手するために売却せざるを得なくなった。(註1)

註1 池長孟「自筆備忘録」(『南蛮堂コレクションと池長孟』展カタログ、神戸市立博物館、2003年、所収)。写真も。

註2 池長孟「南蛮堂要録」池長美術館 1940年

註3 池長孟「邦彩蠻華大宝鑑」創元社 1933年

註4 高見澤たか子「金箔の港」筑摩書房 1989年

註5 池長孟「燈下紙魚記」(『南蛮堂コレクションと池長孟』展カタログ所収)

註6 池長孟「開國秘譚」弘文社 1930年
2,3,6の原文は旧字旧かな。



出来事ファイル (No.17-11)

■開港5都市まちづくり会議
神戸を代表して片山泰造氏発表

9月1日(金)〜3日(日)、新潟で開港5都市まちづくり会議が開かれた。今回は、市民協定をもつ「もとまちハーバー懇談会」が幹事役に当たったのを受け、代表の片山泰造氏が初日の9月1日、新潟日報メディアショップで開かれた全体会議で、パワーポイントを使いながら開港150周年記念事業・都心エリアの再整備計画など、神戸を代表して紹介した。



■神戸元町ミュージックウイーク

20回目を迎えたミュージックウイークは9月30日(土)〜10月8日(日)まで開かれた。初日は風月堂ミュージアム前でスーパーキッズオーケストラ、走水神社北側の会場では神戸市混声合唱団、ふたつの会場で幕を開けた。兵庫県公館では主催コンサートのほか、周辺のホールや商店街路上公演など、期間中、元町は上質な秋の音色につつまれた。



スーパーキッズオーケストラのオープニング

■D51周辺もクリーン作戦で

神戸駅に隣接する相生町に、神戸市が管理するJR西日本(株)所有のD51機関車が置かれている。危険防止のため、周囲に柵が設けられ立ち入りできなかったが、10月4日(水)12時、神戸市が開錠、はじめてエスタシオン・デ・神戸チームが中に入り、クリーン作戦を実施した。今後、クリーン作戦実施日には開錠し、ごみ拾いを実施することになる。



■神戸下水道展

神戸市水道局は9月10日(日)10時〜4時まで、元町3丁目商店街で下水道展を開いた。修理や工事の相談窓口、下水道工事にまつわるニセ職員への注意や、修理・工事トラブルに巻き込まれたときの連絡先など、水まわりへの安心をPR。また地域によって異なるデザインのマンホールやデザインコンテスト入選作など、下水道の世界を紹介した。



■神戸中央郵便局駐車場改装

ハーバーロードに面した中央郵便局の来客用駐車場が、時間貸し有料駐車場になった。中央郵便局は、駐車場管理会社を通じ、案内板など施設に設置する文字カラーについてタウン協議会と打ち合わせをかさね、地域の景観に配慮して赤色部分を少なくすることなどを協議、9月はじめから中央郵便局来場者のほか一般利用者対象の駐車場に衣替えした。



■林・元町映画館支配人「雪」に登場

神戸市消防局監修月刊誌「雪」10月号に、西条遊児さんが66席のミニシアター元町映画館を訪ねた記事がある。取材を受けたのは林未来支配人。映画館開業の経緯から内装や設備調達の経緯、上映作品を決める過程、トークイベントへの取り組みなどを語っている。これまで最高の観客を集めた作品は、「ハッピーアワー」と「エンディングノート」。



西条さんと林さん(右)「雪」10月号より

■子ども船長さん記念撮影会

元町商店街の恒例行事になった児童対象の「ちびっこ船長さん撮影会」が8月26日(土)〜27日(日)の2日間、3丁目商店街で開かれた。観光船や観覧車など、神戸港を舞台にした背景画のまewith「もとづきんちゃん」と並んで立つ船長スタイルの子供たち。ポーズを指示しながらシャッターを押すお父さんの笑顔も、船長さんの宝物…。



■ホームページのタイトルバック完成

タウン協議会では、事業の内容を広く知っていただくため、協議会が神戸市と締結した市民協定など地域の基本的な諸規則のほか、毎月の活動状況、タウンニュース記事など、協議会の動きを掲載するホームページ開設を計画。同ページのタイトルバックに地域を描いた新版「もとマップ」の製作を依頼、このほどフルカラーによる地域図が完成した。



■ガイドツアーコースに元町商店街

阪急・阪神沿線観光あるき実行委員会は10月から来年の3月まで、10回にわたり1丁目から6丁目まで元町商店街めぐりを実施する。神戸風月堂ミュージアムや走水神社のほか呉服、家具、洋菓子、和菓子、果物、雑貨店などガイド付きでまわる。それぞれの店では店主からのお話も。会費は3千円で同額相当のおみやげつき。申込は599-7110まで。



走水神社